

意見書

令和元年 11 月 21 日

魚津 2040 会議

I. はじめに

魚津市の喫緊の課題である持続可能な行財政基盤の確立に向けて、将来の魚津市の公共施設のあり方等について、サービスと負担の視点も踏まえ、若い世代の意見や提案を公共施設再編方針の見直し等に反映するため、本会議が設置されました。

今後5年間の財政健全化に資するため、公共施設の維持・廃止等の議論から始まった本会議ではありますが、会議の名のとおり、現在の20代から40代の世代が支える20年後の2040年においても、この魚津市で市民一人一人がより安全・安心に、明るく暮らしていくことを目標として議論をしてきました。

この意見書は、これまで会議で行ってきた議論の内容をまとめたものでありますが、若い世代の率直な意見として受け止めていただくとともに、今後も継続して持続可能な公共施設のあり方を市民とともに考えていただくことで、魚津市がより良いまちとなることを期待します。

魚津2040会議 メンバー一同

II. 魚津2040会議における検討事項

本会議では、5回にわたり以下のテーマで検討を重ねてきました。

- ① 短期的な公共施設の維持・廃止について
- ② 使用料の適正化について
- ③ 跡地利用について
- ④ 中・長期的な公共施設のあり方について

①及び②については、既に市から方針案が示されたため、本意見書においては、主に③及び④に係る「将来に向けた意見」を提出します。

III. 将来に向けた意見

将来に向け、公共施設のあり方を決定するにあたり、以下の4点について考慮して進めていただくことを願います。

1. 人が集まる公共施設を目指して
2. 廃止する公共施設の対応は、スピーディーかつ大胆に
3. より多くの人に伝える情報発信を
4. 将来に向けた方向性・ビジョンを明確に

1. 人が集まる公共施設を目指して

◆持続可能な公共施設にするため、施設の集約化・複合化を進められたい。

個別意見

- ・公共施設は必要だが、人口減の中、各地に分散配置する必要性は低い。集約化・複合化を図り、施設あたりの機能を充実されたい。
- ・公共施設の集約化・複合化により資源を集中することで、スタッフ配置等のソフト面の充実も図られたい。
- ・複合施設は、ただの詰め込みでは意味がない。複合化による相乗効果が生まれ、さらに多くの人を呼び込むような工夫をされたい。

◆公共施設の活性化や賑わい創出のため、民間活力を活用されたい。

個別意見

- ・各施設の活性化プロジェクトチームを作り、民間を含めた様々な業種の人が集まり、施設運営に企画から参画するような仕組みづくりを考えられたい。
- ・公共施設の遊休スペースを活用して、民間によるイベント開催や商業施設運営を行うなど、民間・行政が共に儲かり、施設内の賑わいが創出されるような仕組みづくりを考えられたい。
- ・民間と行政の間で、事業の連携と住み分けを行うことが重要。日頃から情報共有を行うなど、引き続きコミュニケーションの強化を図られたい。

2. 廃止する公共施設の対応は、スピーディーかつ大胆に

◆ 廃止する公共施設について、利用者のフォローや廃止後の利活用を、スピード感を持って実行されたい。

個別意見

・ 廃止が決定した公共施設について、利用者のフォローが急務。不安を感じている利用者も多いため、早いタイミングで方針を示し、アクションを起こさなければ、利用者の感情低下は避けられない。民間には様々なアイデアを持つ人が多いので、「検討」を続けるよりも、少しずつ「行動」に移されたい。

・ 公共施設の跡地は、適切な管理がされていなければ、劣化が激しくなる。空き家は、「築年数」よりも「空き家になってからの年数」が重要視されることもある。民間活用も想定しているなら、状態が悪くなり、買い手がつかなくなる前に対応されたい。

◆ 公共施設の跡地利用に民間活力を活用されたい。

個別意見

・ 民間に、こういった利用なら利益（市の歳入＋賑わい）が最大化するのか、買い手がつくのか、サウンディング調査等を実施されたい。

・ 最終的な方針を決定し、実行するまでの期間においても、積極的に施設を活用されたい。

・ 公共施設の跡地は全国に多数ある。民間活力を呼び込むために、その公共施設や地域ならではの特徴を打ち出し、積極的にPRされたい。

3. より多くの人に伝える情報発信を

◆「伝わる」ではなく「伝える」。攻めの姿勢で情報発信をされたい。

個別意見

- ・過去のサウンディング調査等を見ると、市内ですら情報が行き届いていない。今後も本気で民間活用を推進するのであれば、発信方法を工夫されたい。
- ・特に20代前半くらいの人達に対する情報発信が重要。「SNSを活用」程度の安易な考えでは、情報は行き届かない。難しい課題ではあるが、検討を続けられたい。
- ・受け身の姿勢のままでは進展はない。対象となる世代の人達が集まる場所に出向く形で情報発信をされたい。

4. 将来に向けた方向性・ビジョンを明確に

◆将来に向けた方向性・ビジョンについて、社会環境の変化等を見据えた長期的な視点で考えられたい。

個別意見

- ・目先のことだけを考えて安易な活用を図るべきではない。10年後、20年後を見据え、計画的な活用を考えられたい。
- ・すべての跡地をリノベーションしても破綻する。取り壊しも必要な決断であり、速やかに実行されたい。
- ・近隣自治体との競争を意識する必要はない。むしろ、効率化のために広域的な利用についても検討されたい。
- ・将来に向けた方向性・ビジョンの作成にあたっては、市民が参画できるような仕組みを考えられたい。

IV. 魚津2040会議 メンバー名簿（分野別、50音順）

分野	氏名	所属
青年団体	大崎正貴	商工会議所青年部会長
青年団体	関口雄介	新川青年会議所理事長
産業関係	酒井洋和	連合富山QFS委員会
産業関係	富居芳弘	青年農業士（りんご）
女性関係	阿部ともみ	※SODO
女性関係	大島恵	※SODO
福祉施設関係	柿本尚子	社会福祉協議会
福祉施設関係	成瀬香里	道下保育園
学校施設関係	浦田さおり	市PTA連合会
学校施設関係	前田尚成	ら・こんせーる・のくちゅーる
学校施設関係	溝口祥子	上中島地域振興会
公民館関係	長谷川恵理子	上野方公民館
体育施設関係	澤田樹孝	うおづスポラ
体育施設関係	三谷智輝	スポーツ推進員
文化施設関係	伊東信一	利用者代表
三太郎塾OB	浜田孝司	MATIN
財務関係	荒地浩志	会計事務所
新成人等	井出寛子	成人式実行委員会
新成人等	椎名宥喜	成人式実行委員会
新成人等	長勢将	成人式実行委員会

V. 魚津2040会議 会議等開催状況

回数	開催日・開催場所	概要
第1回	平成31年4月18日(木) 魚津市役所2階 第1会議室	市の財政状況等について説明後、公共施設のあり方等についてグループワークを実施。主な公共施設について維持・廃止を議論。
施設訪問	令和元年5月12日(日) 埋没林博物館、 ありそドーム、 新川学びの森天神山交流館	第1回で出た意見や疑問等を基に、各施設で働く職員に話を伺った。
第2回	令和元年5月12日(日) 魚津市役所3階 大会議室	第1回に引き続き、公共施設のあり方等についてグループワークを実施。主な公共施設について維持・廃止を議論。
第3回	令和元年6月20日(木) 魚津市役所2階 第1会議室	使用料の適正化に関する基本的な考え方(案)及び跡地利用についてグループワークを実施。
第4回	令和元年7月25日(木) 魚津市役所2階 第1会議室	個別施設の跡地利用についてグループワークを行い、案を作成。
第5回	令和元年10月2日(水) 魚津市役所2階 第1会議室	中長期的に議論が必要な公共施設のあり方等についてグループワークを実施。
第6回	令和元年11月21日(木) 魚津市役所4階 第1・2委員会室	市長に意見書を提出し、意見交換。